

ほんをよむ

この本は、一九九七年にいわゆる「教科書問題」が日韓両国の外交問題になり、国民的関心が高まったとき、論争に参加す

『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史 先史から現代まで』

歴史教育研究会（日本）／
歴史教科書研究会（韓国）・編
明石書店2007年3月刊、2800円+税



最後をしめている。「地に舟をこげ」という在日女性のための

本書執筆の両大学メンバーによる国際シンポジウム「歴史教育をめぐる日本と韓国の対話」が、六月一六日一三時から江戸東京博物館で開催される。問合せは明石書店シンポ係。

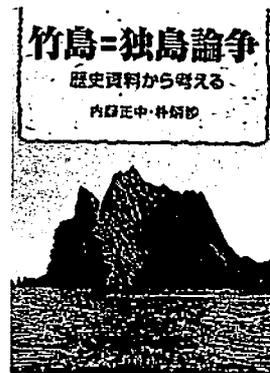
る日本人は韓国の歴史教科書を知らず、韓国側も日本の歴史教科書を読んでいる問題克服するねらいで始まった。日韓双方の学者が、共通の教科書をめざしシンポジウムを重ねた。歴史教育研究会（日本）は東京学芸大学教員・高校教員・院生などのチーム。歴史教科書研究会（韓国）はソウル市立大学教員・院生・卒業生で中高の現教員のチームである。本文三五七頁、「より深く理解するために」が七八頁と索引からなっている。「竹島」は、李承晩ライン、日韓条約、の二カ所と、「より深く理解するために」の日韓条約の締結にでてくるだけで、日露戦争のところにはない。努力を積み重ね改定をつづけて、竹島（独島）もとりあげる時期をまちたい。

媒体が無くとも、在日女性が自由に自己表現できる社会にする

豊陵島・竹島二島を描く地図の発見
竹島（独島）問題を学術的に考えるのに最もてきした書籍が刊行された。内藤正中・朴炳涉著「竹島＝独島論争」歴史資料

『竹島＝独島論争 ～歴史資料から考える～』

内藤正中・朴炳涉・著
新幹社2007年3月刊
2500円+税



こと、これは我々男性に課せられた責務でもある。これからの

この「舟」の行方を見守ってきたい。（高敬一）

料から考えるのがそれである。これまでサイでもとりあげた一六九六（元禄六）年に幕府が渡航を禁止した。一八七七（明治一〇）年太政官が「竹島外一島本邦関係無之義」（この竹島は豊陵島を指す）と決定した、日露戦争と竹島領有を切り離してはならない、という三点はとりあげた（五二五号・五三三号）が、本書はさらに二点の重要な資料を提供してくれた。「磯竹島（豊陵島）略図」これは国立公文書館所蔵「公文録」（太政官の公文書記録）のなかに収められていた。漆崎英之「太政官による竹島外一島版図外指令」の項によると、マイクロフィルム版には収められていないが、原本には丁寧に袋に入れて保管されていたのを発見したとのことである。「版図外」決定をした記録にこの地図が含まれることは、太政官が「外一島」を現竹島と認識していた証拠である。他に占領軍が「竹島」を朝鮮領と認識していた証拠も紹介されている。

この「舟」の行方を見守ってきたい。（高敬一）